

第 35 回東日本ラグビーフットボール大会・スクールの部 1 s t ステージ ゲームレポート



平成 27 年 10 月 18 日（日）今年度の開催地は北海道函館市にある根崎運動公園ラグビー場。
前日夜に降った雨によりグラウンド芝生は若干濡れていたものの、朝から快晴となり気温が上がる予感。
前日行われた抽選により北海道は第 1・第 3 試合となっていたため 7：30 頃からアップを開始した。
選手たちは積極的に声を出し、各自気持ちを高めている様子であった。

第 1 試合は北海道スクール選抜と北東北スクール選抜の試合となった。

開始 3 分北海道は敵陣 10m 付近ラインアウトから B K 展開、 F W 戦も交えながら左右に攻撃の手を変え 10 フ
エイズ以上重ねて F B 菅野が先制トライ。

このトライで波に乗った北海道は更に 2 トライを加えて、 21-0 で前半終了となった。

後半も開始早々に敵陣 22m 付近でペナルティをもらった北海道は、 P R 梅本がクイックスタートを仕掛けて体
の強さを見せ縦に突き進みそのままトライ。

その後交替出場した全リザーブ選手たちも力を存分に出し、更に 4 トライを積み上げ 45-0 にて初陣を飾った。



第 2 試合は北東北スクール選抜と岩手県スクール選抜の試合となった。スピードと一体感のある岩手県が終始
試合を圧倒。北東北も何度か敵陣ゴール前まで攻め込むも岩手県の組織ディフェンスの強さにゴールを割るこ
とができず、結果 63-0 で岩手県の勝利となった。

第 3 試合は北海道スクール選抜と岩手県スクール選抜の試合となった。

勝利したチームが 1 s t ステージ 1 位通過となるため、試合開始から白熱した展開となった。

岩手県は前の試合では見せなかった戦術を使い再三北海道の背後を突いたが、北海道は必死のカバーディフェン
スでゴールを割らせない。

また北海道が得意のFW・BK一体となった展開ラグビーでゴールライン目前まで迫るも岩手県の厚みのある防壁を突破できずにいた。

そんな拮抗した試合展開の中、ロスタイムに北海道のペナルティから速攻を仕掛けた岩手県が先制点を奪い、0-7で前半終了。

後半開始早々にトライを奪われた北海道は自分たちのラグビーができずに失点を重ね、0-33でノーサイド。結果1勝1敗となり、3年連続2位通過。

2ndステージはプレートトーナメントへ進むこととなった。



昨年の2ndステージでは、3試合連続で勝利を挙げプレートトーナメントで優勝し全国ジュニア出場をかけた第4代表選考試合に進んだものの、力尽き、花園出場は果たせなかった。

今年度のチームテーマである『FOR ALL』を徹底し、もう一度「自己犠牲とは何なのか」を考え直したい。

ワールドカップにおいて最後まであきらめなければ、必ず何かに到達できることを日本代表が示してくれた。

まだまだ伸びしろのある北海道の選手達。最終宿舎でやるべきことは全てやり尽くしたい。

今年こそは「下剋上」！



北海道スクール選抜 ヘッドコーチ
小柴 大地